

琉球大学医学部規程

昭和 56 年 3 月 31 日
制 定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、国立大学法人琉球大学組織規則第 27 条第 2 項の規定に基づき、琉球大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、琉球大学医学部（以下「医学部」という。）の授業科目、単位、授業時間、履修方法その他必要な事項を定める。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第 1 条の 2 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(学科及び講座)

第 2 条 本学部に、次の学科及び講座を置く。

医学科

保健学科 基礎看護学、成人老年看護学、母子看護学、地域看護学、生体検査学、病態検査学

(教育研究上の目的)

第 2 条の 2 医学部の教育研究上の目的及び医学科、保健学科の人材の育成に関する目的は、次のとおりとする。

医学部

- (1) 島嶼環境にある沖縄県のおかれた自然的・地理的条件並びに歴史的背景をふまえ、地域医療を充実させる。
- (2) 国民の医療、福祉、保健の向上に貢献するとともに、南に開かれた国際性豊かな医学部として発展させ、東南アジアを主とする諸外国との学术交流及び保健・医療協力に寄与する。

医学科

医学に関する専門の学術を修得し、医の倫理を身につけ、医学の進歩に柔軟に対応しうる医師、研究者を育成する。

保健学科

保健学に関する専門の学術を修得し、生命を尊重する思いやりを持った、地域社会並びに国際社会に貢献する保健医療専門職者を育成する。

(共通教育等の授業科目の種類等)

第 3 条 共通教育及び専門基礎教育（以下「共通教育等」という。）の授業科目の種類、単位数及びその履修方法は、琉球大学共通教育等履修規程の定めるところによる。

2 医学科の第 2 年次特別編入学生にあっては、前項に定める単位の修得を要さない。ただし、「動物実験の基礎」及び「倫理総合討論」にあっては、履修するものとする。

(専門教育の授業科目等)

第 4 条 各学科の専門科目の種類、単位数、授業時間数及び履修方法については、別表 1 及び別表 2 のとおりとする。

(単位の計算方法)

第 5 条 専門教育の授業科目の単位の計算方法は、次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要と認められる場合には、30時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要と認められる場合には、30時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 一つの授業科目について、講義、演習、実験又は、実習のうち二以上の方法の併用により行う場合において、講義及び演習については係数3（ただし、演習については、教育上必要と認める場合には係数1.5）、実験及び実習については係数1（ただし、演習については、教育上必要と認める場合には係数1.5）に対し、それぞれの授業時間を乗じて得た数値の和が45時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適当と認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めるものとする。

(授業科目の公示)

第6条 各学科の各学期に開設する授業科目、単位数、授業時間数及び担当教員は、各学期の始めに公示する。ただし、臨時に開講する授業科目については、開講1週間前までに公示する。

(登録・試験及び成績評価)

第7条 医学科及び保健学科の共通教育等の科目並びに保健学科専門科目の登録、試験及び成績評価については、琉球大学各学部共通細則の定めるところによる。

2 医学科専門科目の試験、履修及び進級等については、別に定める。

(臨床実習履修条件)

第8条 医学科の臨床実習を開始できる者は、公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構が行う共用試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination, CBT：Computer Based Testing）に合格した者でなければならない。

(関連教育病院)

第9条 医学科は、関連教育病院において学生の臨床実習の一部を行なわせるものとする。

2 前項の臨床実習に関する必要な事項は、別に定める。

(卒業の要件)

第10条 卒業するには、医学科にあつては本学に6年以上（学則第33条第2項の規定に基づく医学科の第2年次特別編入学者の卒業要件は5年以上）在学し、別表3に定める単位の修得並びに専門科目を履修し、かつ、総合試験及び臨床実習後OSCE (Post-CC OSCE) に合格しなければならない。

2 保健学科にあつては本学に4年以上在学し、別表4に定める単位の修得並びに専門科目を履修しなければならない。

(卒業の判定)

第11条 卒業の判定は、教授会が行う。

(各種免許)

第12条 保健学科の学生で、各種の免許状を取得しようとする者は、当該免許にかかる所要の単位を修得しなければならない。

(指導教員)

第13条 学生の勉学その他の相談に応じるため、各学科の年次ごとに指導教員を置く。

附 則 (昭和57年4月19日)

この規程は、昭和57年4月19日から施行し、昭和57年4月 1日から適用する。

附 則 (昭和58年4月11日)

この規程は、昭和58年4月11日から施行し、昭和58年4月 1日から適用する。

附 則 (昭和59年4月26日)

この規程は、昭和59年4月26日から施行し、改正後の琉球大学医学部規程の規定は、昭和59年4月1日から適用する。

附 則 (昭和60年4月24日)

この規程は、昭和60年4月24日から施行し、改正後の琉球大学医学部規程の規定は、昭和60年4月1日から適用する。

附 則 (平成2年6月8日)

この規程は、平成2年6月8日から施行する。

附 則 (平成6年3月22日)

- 1 この規程は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条、第5条及び第10条の規定は、平成6年度の入学者から適用する。
- 3 前項の規定にかかわらず、必要と認める場合には、改正後の第5条の規定を平成6年3月31日に在学する者(以下「在学者」という。)に適用する。
- 4 前2項の規定にかかわらず、必要と認める場合には、在学者に改正後の第4条及び第5条の規定に基づき平成6年度以降の入学者のために開設される授業科目を履修させる。この場合において、当該授業科目の履修を改正前の規定に基づく授業科目の履修とみなし、単位を与える。

附 則 (平成7年6月28日)

この規程は、平成7年6月28日から施行する。

附 則 (平成7年11月28日)

この規程は、平成8年4月1日から施行し、改正後の第4条別表1は、平成7年4月1日に在学する者に適用する。

附 則 (平成13年6月27日)

この規程は、平成13年6月27日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

附 則 (平成15年2月24日)

- 1 この規程は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 平成15年3月31日に在学していた者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行し、平成17年3月1日から適用する。

附 則 (平成18年2月22日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年7月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 22 年 3 月 19 日）

この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 25 年 3 月 27 日）

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 3 月 19 日）

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 2 月 18 日）

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 6 月 24 日から施行する。

附 則（平成 28 年 2 月 24 日）

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 29 年 2 月 22 日）

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 2 月 28 日）

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 5 月 23 日）

1 この規程は、平成 30 年 5 月 23 日から施行し、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。

2 第 3 条第 2 項の規定は、平成 29 年度以前に在籍していた者についても適用する。

附 則（平成 30 年 9 月 26 日）

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 11 月 28 日）

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 31 年 3 月 5 日）

1 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

2 第 10 条第 1 項については、平成 31 年 4 月 1 日以降の在籍者に適用する。

別表 1

医学科専門科目の種類及び授業時間数

(1) 専門教育科目

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
分 子 細 胞 生 物 学	150	
人 体 の 構 造 と 機 能	120	
解 剖 学 実 習 ・ 骨 学 実 習	114	
組 織 学 実 習	45	
神 経 科 学	87	
微 生 物 ・ 免 疫 学	120	
遺 伝 医 学	21	
発 生 再 生 医 学	21	
病 理 学 I	52	
病 理 学 II	49	
薬 理 学	93	
衛 生 学 ・ 公 衆 衛 生 学	42	
法 医 学 ・ 医 事 法 制	28	
医 科 認 知 情 報 科 学	10	
病 理 総 合 学 習	22	
医 療 情 報 学	8	
医 科 情 報 研 究	387	
症 候 と そ の 評 価 法	17	
治 療 学 系	15	
消 化 器 系	29	
麻 酔 医 学 系	17	
呼 吸 器 ・ 胸 壁 ・ 縦 隔 系	25	
女 性 生 殖 器 系	35	
歯 ・ 顎 ・ 口 腔 系	15	
腎 ・ 泌 尿 器 系	28	
循 環 器 系	37	
運 動 器 系	28	
精 神 医 学 系	22	
内 分 泌 系	16	
皮 膚 結 合 織 系	19	
膠 原 病 ・ リ ウ マ チ 病 学	14	
神 経 医 学 系	22	
血 液 学 系	14	
感 覚 器 系 (耳)	19	
感 覚 器 系 (眼)	17	
沖 縄 特 色 科 目	11	
感 染 症 系	21	
代 謝 学 系	13	
救 急 医 療 系	19	
小 児 医 学 系	30	
放 射 線 医 学 系	18	
臨 床 薬 理 学	15	
地 域 医 療 / プ ラ イ マ リ ・ ケ ア	8	
総 合 講 義	20	
医 療 学 総 論 (特 別 演 習)	25	
T B L チ ュ ー ト リ ア ル	62	
B P E	80	
臨 床 実 習	2,880	
合 計	4,960	

(2) 基礎教育科目

必修・選択 の別	科目番号	授業科目	単位
必修	医 1 0 1	外 来 患 者 付 添 い 実 習	1
	医 1 0 2	シ ミ ュ レ ー シ ョ ン 演 習	2
	医 1 0 3	救 急 車 同 乗 実 習	1
	医 2 0 5	医 学 概 論 B	1
	医 2 0 6	体 験 学 習	1
	医 3 0 1	離 島 地 域 病 院 実 習	1
	医 5 0 3	医 学 外 国 語	1
	医 5 0 5	東 洋 医 学 概 説	1

(3) 第2年次編入学生に対する特化授業科目

必修・選択 の別	科目番号	授業科目	単位
必修		熱帯医学・国際保健医学	1

別表3
医学科卒業要件

授業科目の区分		必修	選択	備 考
共通教育	教養領域	健康運動系科目		
		人文系科目	2単位	※人文、社会、琉大特色から4単位
		社会系科目	2単位	
		自然系科目		
	総合領域	総合科目	6単位	
		琉大特色科目		
	基幹領域	情報関係科目	2単位	情報科学演習(2)
外国語科目		6単位	英語(6)	
小 計		22単位		
専門基礎教育	先修科目	3単位		統計学(2)、化学実験(1)
専門教育	専門科目	9単位		外来患者付添い実習(1) シミュレーション演習(2) 救急車同乗実習(1) 医学概論B(1) 医学外国語(1) 東洋医学概説(1) 体験学習(1) 離島地域病院実習(1)
	基盤教育科目	4,906時間		
合 計		34単位 4,960時間		

抜粋
琉球大学医学部規程

(臨床実習履修条件)

第8条 医学科の臨床実習を開始できる者は、公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構が行う共用試験 (OSCE : Objective Structured Clinical Examination, CBT : Computer Based Testing) に合格した者でなければならない。

(卒業の要件)

第10条 卒業するには、医学科にあつては本学に6年以上(学則第33条第2項の規定に基づく医学科の第2年次特別編入学生の卒業要件は5年以上)在学し、別表3に定める単位の修得並びに専門科目を履修し、かつ、総合試験及び臨床実習後OSCE (Post-CC OSCE)に合格しなければならない。

◎学士入学者の卒業要件に以下を加える。

学士入学者は、「学士入学者に対する特化授業」を履修すること。

※医学科専門教育科目の授業時間・内容等詳細については「琉球大学医学部医学科履修要綱」を参照すること。

別表1 保健学科 専門教育科目の種類・単位数・授業時間数

年次	科目番号	授業科目名	単位	週時間	受講年次	クォーター	年次	科目番号	授業科目名	単位	週時間	受講年次	クォーター
一 年 次	保Q 101	生命倫理学	1	(1-0)	1	1	三 年 次	保Q 315	養護概説	2	(2-0)	3	1
	保Q 102	保健福祉政策論	2	(2-0)	1	1		保Q 323	病理組織細胞学	3	(2-3)	3	1
	保Q 103	シミュレーション演習	2	(2-0)	1	1		保Q 324	臨床免疫学	2	(1-3)	3	1
	保Q 111	看護学概論	2	(2-0)	1	2		保Q 325	臨床微生物学	3	(2-3)	3	1
	保Q 112	保健関係法規	1	(1-0)	1	2		保Q 333	救急・災害援助	1	(1-0)	3	1
	保Q 113	早期体験実習	1	(0-3)	1	前期(集中)		保Q 334	周産期学	2	(2-0)	3	1
	保Q 121	生化学	2	(2-0)	1	3		保Q 316	カウンセリング論	2	(2-0)	3	1・2
	保Q 122	栄養学	2	(2-0)	1	3		保Q 321	臨床生理学 I	2	(1-3)	3	1・2
	保Q 123	解剖学・組織学	2	(1-3)	1	3・4		保Q 326	技術卒業研究 I	2	(0-6)	3	1・2
	保Q 124	生理学	2	(1-3)	1	3・4		保Q 331	感染看護学	1	(1-0)	3・4	1又は2
	保Q 131	微生物学	2	(1-3)	1	4		保Q 305	高齢期看護実践学	2	(1-2)	3	2
	保Q 132	地域看護学	2	(2-0)	1	4		保Q 306	在宅看護実践学	2	(1-2)	3	2
	保Q 133	生活援助看護技術 I	3	(1-4)	1	4		保Q 313	助産診断・技術学 I	2	(2-0)	3	2
	保Q 134	生活援助看護技術実習 I	1	(0-3)	1	後期(集中)		保Q 314	ウイメンズヘルス	2	(2-0)	3	2
二 年 次	保Q 201	疫学	2	(2-0)	2	1	保Q 317	健康教育学	2	(2-0)	3	2	
	保Q 202	薬理学	2	(1-3)	2	1	保Q 322	臨床病態学総論	1	(1-0)	3	2	
	保Q 211	分析化学	2	(1-3)	2	1	保Q 327	臨床化学 II	2	(2-0)	3	2	
	保Q 212	免疫学	1	(1-0)	2	1	保Q 328	臨床生理学 II	3	(3-0)	3	2	
	保Q 213	臨床検査総論	2	(1-3)	2	1	保Q 329	遺伝子診断技術学	2	(1-2)	3	2	
	保Q 203	病理学	2	(1-3)	2	1・2	保Q 332	がん看護論	1	(1-0)	3	2	
	保Q 204	生活援助看護技術 II	3	(1-4)	2	1・2	保Q 335	学校保健学	2	(2-0)	3	2	
	保Q 214	地域アセスメント実習	1	(0-3)	2	1・2	保Q 341	小児看護実践学	2	(1-2)	3	3	
	保Q 215	地域アセスメント	1	(1-0)	2	1・2	保Q 342	慢性期看護実践学	2	(1-2)	3	3	
	保Q 221	高齢期看護学	2	(2-0)	2	2	保Q 343	精神看護実践学	2	(1-2)	3	3	
	保Q 222	母性看護学	2	(2-0)	2	2	保Q 344	急性期看護実践学	2	(1-2)	3	3	
	保Q 223	フィジカルアセスメント	1	(2-0)	2	2	保Q 351	公衆衛生看護実践学 II	2	(1-2)	3	3	
	保Q 231	生化学実習	1	(0-3)	2	2	保Q 352	助産診断・技術学 II	3	(2-2)	3	3	
	保Q 232	臨床血液学	2	(1-3)	2	2	保Q 353	助産管理	1	(1-0)	3	3	
	保Q 233	臨床検査管理・機器総論	2	(2-0)	2	2	保Q 361	保健技術学実習	8	(0-24)	3	3	
	保Q 234	保健統計学	2	(2-0)	2	2	保Q 371	看護英語文献講読	1	(1-0)	3・4	3	
	保Q 235	医動物学	1	(1-0)	2	2	保Q 372	国際保健概論	1	(1-0)	3	3	
	保Q 236	医動物学実習	1	(0-3)	2	2	保Q 345	卒業研究 I	1	(0-3)	3	3・4	
	保Q 237	食品衛生学	2	(2-0)	2	2	保Q 346	高齢期看護実習 II	2	(0-6)	3	4	
	保Q 241	生活援助看護技術実習 II	2	(0-6)	2	3	保Q 347	母性看護実習	2	(0-6)	3	4	
	保Q 242	外来看護実習	1	(0-3)	2	3	保Q 348	在宅看護実習	2	(0-6)	3	4	
	保Q 243	高齢期看護実習 I	1	(0-3)	2	3	保Q 362	技術卒業研究 II	2	(0-6)	3	4	
	保Q 251	R I 検査技術学	2	(2-0)	2	3	保Q 373	病理特殊検査法	2	(2-0)	3	4	
	保Q 253	健康食品学	1	(1-0)	2	3	保Q 374	画像診断学	2	(2-0)	3	4	
	保Q 254	保健技術英語文献講読	2	(2-0)	2	3	保Q 411	臨床看護技術の統合	1	(1-0)	4	1	
	保Q 252	医用電子工学	3	(2-2)	2	3・4	保Q 412	小児看護実習	2	(0-6)	4	1・2	
	保Q 261	国際環境保健学	2	(2-0)	2	4	保Q 413	慢性期看護実習	2	(0-6)	4	1・2	
	保Q 262	症候病態論	2	(2-0)	2	4	保Q 414	精神看護実習	2	(0-6)	4	1・2	
	保Q 263	成人看護学	2	(2-0)	2	4	保Q 415	急性期看護実習	2	(0-6)	4	1・2	
	保Q 264	精神看護学	2	(2-0)	2	4	保Q 416	成人総合看護実習	1	(0-3)	4	1・2	
	保Q 265	小児看護学	2	(2-0)	2	4	保Q 421	助産診断・技術学 III	3	(1-4)	4	1・2	
	保Q 271	病態生理学	2	(2-0)	2	4	保Q 402	総合検査学	2	(2-0)	4	2	
	保Q 272	臨床化学 I	3	(2-3)	2	4	保Q 422	公衆衛生看護実習 I	4	(0-12)	4	前期(集中)	
	保Q 273	臨床心理学	2	(2-0)	2	4	保Q 423	助産実習 I	2	(0-6)	4	前期(集中)	
保Q 274	島嶼地域看護論	2	(2-0)	2	4	保Q 424	養護実践演習	1	(1-0)	4	前期(集中)		
保Q 275	分子生物学入門	1	(1-0)	2	4	保Q 425	養護実習	4	4週間	4	前期(集中)		
保Q 276	公衆衛生看護学概論	2	(2-0)	2	4	保Q 432	看護統合実習	2	(0-6)	4	3		
保Q 277	遺伝看護学	1	(1-0)	2	4	保Q 441	公衆衛生看護管理	2	(1-2)	4	3		
三 年 次	保Q 301	家族看護学	2	(2-0)	3	1	保Q 442	公衆衛生看護実習 II	1	(0-3)	4	3	
	保Q 302	母性看護実践学	2	(1-2)	3	1	保Q 443	助産実習 II	8	(0-24)	4	3・4	
	保Q 303	緩和ケア論	1	(1-0)	3	1	保Q 445	教職実践演習(養護教諭)	2	(2-0)	4	3・4	
	保Q 304	看護システムと国際看護	1	(1-0)	3	1	保Q 444	助産統合実習	1	(0-3)	4	4	
	保Q 311	公衆衛生看護実践学 I	2	(1-2)	3	1	保Q 401	技術卒業研究 III	4	(0-12)	4	1~4	
保Q 312	助産の理論	2	(2-0)	3	1	保Q 431	卒業研究 II	2	(0-6)	4	1~4		

※集中講義は、夏季休業又は春季休業中の開講を含む。

別表 2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択の別 看 検	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	クォーター	授 業 内 容
必	必	保Q 101	生命倫理学	1	(1-0)	1	1	保健医療における生と死の倫理的問題について考える。
必	必	保Q 102	保健福祉政策論	2	(2-0)	1	1	保健・医療・福祉の基本理念と制度を理解し、関係職種相互の連携について学ぶ。行政組織を理解し、保健医療福祉計画の企画および評価について実践的に学び、保健医療サービスの提供に関する制度的しくみを体系的に学ぶ。健康に係る政策形成過程を事例を用いて学ぶ。
選	選	保Q 103	シミュレーション演習	2	(2-0)	1	1	医療現場で遭遇する様々な状況をシミュレーションで再現して、実際に患者や家族と関わる医療者としての知識・技術・態度を学習する。患者や家族との良好な関係を築くためのコミュニケーション技術や、患者や患者の置かれている環境について理解するための五感を使った医療者の感性を養うため、各演習でシミュレーションして患者や家族とどのように対話し、対応するのかをともに考える。
必	選	保Q 111	看護学概論	2	(2-0)	1	2	看護の歴史、看護学の概念、看護の対象である人間・健康・環境について理解する。また、看護実践の理論的枠組みについて事例を通して学ぶ。
選	必	保Q 112	保健関係法規	1	(1-0)	1	2	保健医療福祉に関する基本法令、関係法令について学ぶ。
必	必	保Q 113	早期体験実習	1	(0-3)	1	前期 (集中)	保健医療の現場における早期体験を通して専門科目への動機づけを行う。
必	必	保Q 121	生化学	2	(2-0)	1	3	生化学の基本的事項である、(1) 人体を構成する基本物質の構造と機能、(2) それら基本物質の代謝、(3) それら基本物質の代謝異常と病気の関連について、分子論的観点から学ぶ。
必	必	保Q 122	栄養学	2	(2-0)	1	3	食物に含まれる栄養素の種類と役割、その体内代謝とエネルギー代謝、栄養状態の評価について学ぶ。さらに、ライフステージ別の栄養、疾患別食事療法と栄養補給法について学ぶ。
必	必	保Q 123	解剖学・組織学	2	(1-3)	1	3・4	人体の肉眼的構造と微細構造について基本的な事柄を講義で学ぶ。重要な器官については系統解剖実習と顕微鏡実習により理解を深める。
必	必	保Q 124	生理学	2	(1-3)	1	3・4	生理学は、生命現象のメカニズム、調節機構を理解する学問である。人体に見られる種々の生命現象のメカニズムについて、個々のシステムの働きと身体全体としての調節の働きと両面から講義する。基本的な検査技術を用いた実習を行なう。実習の結果をまとめレポートを作成する。
必	必	保Q 131	微生物学	2	(1-3)	1	4	疾病に関連する細菌、ウイルス、真菌などの分類、性質、病原性、薬剤反応性などについて基本的知識を学ぶ。
必	選	保Q 132	地域看護学	2	(2-0)	1	4	地域で生活する人びとに対する看護の基本を学び、公衆衛生看護（行政）、在宅看護、産業看護、学校看護の基本的な理念・目標・技術を学ぶ。また、母子から高齢者までの住民の多様なニーズに対応できる地域の社会資源、関係機関について学び、地域看護活動を展開するための基本的知識、技術を学ぶ。
必		保Q 133	生活援助看護技術 I	3	(1-4)	1	4	看護に共通な基本技術、日常生活援助看護技術、コミュニケーション技術について学ぶ。
必		保Q 134	生活援助看護技術実習 I	1	(0-3)	1	後期 (集中)	対象者を全人的に理解し、日常生活援助技術、コミュニケーション技術を実践的に学ぶ。
必	必	保Q 201	疫学	2	(2-0)	2	1	人間集団の中で出現する健康関連事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を包括的に考究し、健康増進や疾病予防のあり方について学ぶ。
必	必	保Q 202	薬理学	2	(1-3)	2	1	医薬品の薬理作用、副作用及び臨床応用
必	必	保Q 203	病理学	2	(1-3)	2	1・2	病理学は病気の本質を明らかにする学問である。病気の原因とそれによる病的変化が発生するメカニズムを理解する。さらに病気により生じた臓器・組織の構造上、機能上の変化を学ぶ。

別表2
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択の別	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	クォーター	授 業 内 容
必		保Q 204	生活援助看護技術Ⅱ	3	(1-4)	2	1・2	診療・検査に伴う看護技術、指導技術、フィジカルアセスメント、事例を用いて看護過程の展開方法について学ぶ。
選	必	保Q 211	分析化学	2	(1-3)	2	1	臨床化学につながる化学分析の理論を学習し、器具・機器による基本的実践を行う。さらに得られたデータの解析が十分できるようにする。
選	必	保Q 212	免疫学	1	(1-0)	2	1	細菌やウイルスなどの微生物が体内に侵入することによって引き起こされる免疫反応について、これに関わる細胞群とサイトカインなどの液性因子が織りなす生体反応として捉え、さらに過剰な免疫反応（アレルギー）と免疫不全状態についてもこれら生体反応の異常として理解できるよう講義する。
選	必	保Q 213	臨床検査総論	2	(1-3)	2	1	臨床検査に必要な知識、技術及び尿、便、血液などの一般検査について実習を行い、臨床的意義を学習する。
選	選	保Q 214	地域アセスメント実習	1	(0-3)	2	1・2	地域社会の個人、家族、集団の健康の保持増進、疾病の予防、回復および地域生活への適応を援助するために人びとが生活する地域について学ぶ。「地域で生活する」人びとの日常を理解し、看護の対象者理解に役立てる。
選	選	保Q 215	地域アセスメント	1	(1-0)	2	1・2	地域に顕在、潜在する健康課題を捉えるための地域のアセスメントに関する理論、技術を学ぶ。
必	選	保Q 221	高齢期看護学	2	(2-0)	2	2	ライフサイクルからみた高齢（老年）期の特徴と加齢に伴う生活の変化、健康障害の特徴について理解し、健康の保持増進、自立した生活を支援するための高齢者看護の役割について学ぶ。
必		保Q 222	母性看護学	2	(2-0)	2	2	母性看護の対象となる人々を理解するために必要な基本概念、看護援助に必要なリプロヘルス、人生移行などの基本理論について学ぶ。
必		保Q 223	フィジカルアセスメント	1	(2-0)	2	2	医学的知識に裏づけられた、フィジカルアセスメントの知識・技術を習得する。事例を用いた演習を行い、実践的なアセスメント力を養う。
選	必	保Q 231	生化学実習	1	(0-3)	2	2	生体諸物質の性質と機能や分離・測定法について学ぶ。
選	必	保Q 232	臨床血液学	2	(1-3)	2	2	臨床検査に必要な血液学および血液疾患について学習する。
選	必	保Q 233	臨床検査管理・機器総論	2	(2-0)	2	2	検査技術管理(検体採取法や検体管理、成績の精度管理など)を含む検査管理総論と検査機器の保守管理を含む検査機器総論を学習する。
選	必	保Q 234	保健統計学	2	(2-0)	2	2	人間集団を対象とした健康関連情報の種類、分布、収集方法、統計的整理、分析、評価など、統計学の基礎について学ぶ。
選	必	保Q 235	医動物学	1	(1-0)	2	2	人間に病害を与える自然界の動物の形態、生態（感染経路、病害）、予防法について学習する。
	必	保Q 236	医動物学実習	1	(0-3)	2	2	医動物学の講義と平行し、重要事項について実習・見学を通して検査・予防方法などを習得する。
選	選	保Q 237	食品衛生学	2	(2-0)	2	2	細菌性を含む食中毒、食品添加物、食品汚染や食品梱包容器の材質の問題、食品の安全管理、各食品群の質とその劣化、衛生上の要点等について学ぶと共に、食品衛生法規についても理解する。
必		保Q 241	生活援助看護技術実習Ⅱ	2	(0-6)	2	3	生活援助看護技術、診療援助看護技術の実践を通して看護過程の展開方法について学ぶ。
必		保Q 242	外来看護実習	1	(0-3)	2	3	外来部門及び中央診療部門の特徴や看護の役割・機能を学ぶとともに、継続看護の視点から包括的な看護の役割と機能を学ぶ。
必		保Q 243	高齢期看護実習Ⅰ	1	(0-3)	2	3	介護老人福祉施設で生活している高齢者の生活場面をとおして施設における高齢者看護の実践について学ぶ。

別表2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択の別 看 検	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	クォーター	授 業 内 容
選	必	保Q 251	R I 検査技術学	2	(2-0)	2	3	放射性同位元素の基礎原理と臨床検査における利用について学習する。
選	必	保Q 252	医用電子工学	3	(2-2)	2	3・4	臨床検査及び医療に应用されている電子工学の理論と医用機器について学習する。
選	選	保Q 253	健康食品学	1	(1-0)	2	3	保健機能食品の健康とのかかわりを物質代謝レベルで理解し、健康食品の過剰摂取による問題点、安全性と有効性、医薬品と健康食品の相違や相互作用について学習する。
選	選	保Q 254	保健技術英語文献講読	2	(2-0)	2	3	保健技術系各分野のトピックスを外国文献を通して学習する。
必	必	保Q 261	国際環境保健学	2	(2-0)	2	4	自然生態系と人間、有害環境因子、地球温暖化と環境・健康問題について国際的な視点で講義する。
必	選	保Q 262	症候病態論	2	(2-0)	2	4	主な疾患の症候、病態、治療の基本を学習する。
必	選	保Q 263	成人看護学	2	(2-0)	2	4	生活者、発達段階、健康のレベルの視点から成人期である対象を捉え、ヘルスプロモーションから疾病、障害を有する人々への看護を展開する上での基礎的知識や看護理論について学ぶ。
必	選	保Q 264	精神看護学	2	(2-0)	2	4	心や性の発達、家庭、学校、職場、地域における精神保健と援助の概要、精神障害の基礎知識について学習する。
必		保Q 265	小児看護学	2	(2-0)	2	4	小児の成長・発達及び生活と社会・健康問題について理解し、小児看護の基本的理論と生活援助技術について学ぶ。
選	必	保Q 271	病態生理学	2	(2-0)	2	4	頻度の高い患者の訴えを取り上げ、病態の成立機序を学習する。
	必	保Q 272	臨床化学 I	3	(2-3)	2	4	生体における化学成分や酵素の定量及び機能検査の測定法や原理、病態との関連を、講義と実習を通して学習する。
選	選	保Q 273	臨床心理学	2	(2-0)	2	4	さまざまな保健医療場面における対象者の心理学的理解と、心理アセスメント・心理療法を学ぶ。
選	選	保Q 274	島嶼地域看護論	2	(2-0)	2	4	沖縄県の地域特性に関わる保健活動を離島の保健活動を中心に学ぶ。
選	選	保Q 275	分子生物学入門	1	(1-0)	2	4	遺伝子診断技術学に必要な分子生物学の基礎について学ぶ。
選	選	保Q 276	公衆衛生看護学概論	2	(2-0)	2	4	公衆衛生看護活動の概要を学び、地域を基盤とした予防の考え方を学ぶ。顕在化した健康課題を抱える対象者のみでなく、潜在化した健康課題を抱える対象者への支援方法について対象別に学ぶ。
選	選	保Q 277	遺伝看護学	1	(1-0)	2	4	遺伝的疾患のある人および家族に対する看護支援について学ぶ。
必	選	保Q 301	家族看護学	2	(2-0)	3	1	健康問題のある患者・家族を1つのユニットと捉え、家族全体をアセスメントし、アプローチするための基礎となる概念について学ぶ。また、家族をテーマとした映画の分析や家族物語のドラマ作成での集団学習を通して、多様な家族像を理解し概念化できる知識と技術を学ぶ。
必		保Q 302	母性看護実践学	2	(1-2)	3	1	ヒューマン・セクシャリティ、リプロダクティブ・ヘルス／ライツを尊重し、特に周産期の女性や家族に対する看護援助の知識・実践技術を学ぶ。
必		保Q 303	緩和ケア論	1	(1-0)	3	1	患者をトータルペインの視点で捉え、症状の緩和とQOLの改善にむけての援助を提供するための基本的知識を学ぶ。また、終末期における看護について学ぶとともに死をめぐる倫理的課題やチーム医療についても理解を深め、看護の役割について考える。
必		保Q 304	看護システムと国際看護	1	(1-0)	3	1	チーム医療および国際協力に対応できるように、メンバーシップ、リーダーシップ、看護マネジメント、医療安全管理、災害看護、諸外国との協働について学ぶ。

別表 2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択の別	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	クォーター	授 業 内 容
必		保 Q 305	高齢期看護実践学	2	(1-2)	3	2	高齢期にある対象の特徴を踏まえ、老化や健康障害に応じた援助方法について、生活機能・QOL及び倫理的な観点から学ぶ。
必		保 Q 306	在宅看護実践学	2	(1-2)	3	2	在宅で療養する人々や家族の健康問題、生活障害、終末期ケア等の看護展開に必要な看護技術、社会資源の活用方法、他機関との連携やケアマネジメントなど、在宅ケアにおける看護者の役割及び機能について解説する。また、対象者の健康問題や生活障害をアセスメントし、多様な価値観、生活習慣等を尊重しつつQOLの維持・向上をめざす看護者の知識・技術・態度について学ぶ。
選		保 Q 311	公衆衛生看護実践学 I	2	(1-2)	3	1	公衆衛生看護の対象となる人々や健康課題の特徴について学ぶ。個人や家族を単位とした生活と健康を多角的・継続的にアセスメントする方法や健康課題を解決・改善する方法について学ぶ。
選		保 Q 312	助産の理論	2	(2-0)	3	1	周産期における母子の健康や女性の生涯を通じた健康づくりに焦点をあて、どの時期においても最適な援助ができるよう、助産師が身につけるべき助産の基礎理論を学ぶ。
選		保 Q 313	助産診断・技術学 I	2	(2-0)	3	2	周産期医療の現場や少子化社会のニーズに対応でき、的確な判断力と助産技術で自律的に出産や女性の健康に関わる人材として、助産診断技術の基礎的知識を学習する。さらにそれらを科学的に理解し思考する能力、母子やその家族に最も望ましい助産ケアを提供できるための基礎技術を学ぶ。
選		保 Q 314	ウイメンズヘルス	2	(2-0)	3	2	女性の生涯を通じた性・生殖に関する健康問題への援助を学ぶ。
選		保 Q 315	養護概説	2	(2-0)	3	1	養護教諭の存在意義と職務の概要ならびに職務を遂行するための基本的な知識及び方法を学ぶ。
選		保 Q 316	カウンセリング論	2	(2-0)	3	1・2	カウンセリングの基礎知識と基本的な技法をふまえ、学校や病院臨床その他での活用方法を学ぶ。
選		保 Q 317	健康教育学	2	(2-0)	3	2	健康教育における理論と方法を学び、行動変容にかかわる実践力を高める。
選	必	保 Q 321	臨床生理学 I	2	(1-3)	3	1・2	心電図検査、呼吸心機能検査、超音波検査などの臨床生理検査について、その原理と検査の実際について学習する。
選	必	保 Q 322	臨床病態学総論	1	(1-0)	3	2	様々な疾病について臓器別・機能別に分類して捉え、病因・病態、診断と主な治療法について系統的に理解できることを目的として講義する。内容は序論に始まり12の臓器別・機能別疾患群からなり、各疾患群の臨床病理の基本を把握できるようになっている。
	必	保 Q 323	病理組織細胞学	3	(2-3)	3	1	病理組織学、細胞診断学及び病理標本、細胞標本の作製に必要な知識と技術を講義と実習を通じて学ぶ。
	必	保 Q 324	臨床免疫学	2	(1-3)	3	1	病態の成立機序を免疫学的側面により学習する。
	必	保 Q 325	臨床微生物学	3	(2-3)	3	1	疾病に関連する細菌、ウイルス、真菌などの疾病発症に至る機構、病原性の発揮、薬剤抵抗性機構及びこれら病原微生物の検査法について学ぶ。
	必	保 Q 326	技術卒業研究 I	2	(0-6)	3	1・2	保健諸分野の研究方法论、実験計画法、調査法などを学習する。
	必	保 Q 327	臨床化学 II	2	(2-0)	3	2	体液や臓器の構成成分の質的・量的変動を通して病気の発症機構を臨床生化学の面から学習する。
	必	保 Q 328	臨床生理学 II	3	(3-0)	3	2	画像診断や感覚機能検査を中心として生理機能検査とその臨床的意義について学習する。
	必	保 Q 329	遺伝子診断技術学	2	(1-2)	3	2	分子生物学的手法を用いた各分野の臨床検査について学習する。

別表2
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択の別	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	クォーター	授 業 内 容
選	選	保 Q 331	感染看護学	1	(1-0)	3・4	1又は2	医療・保健・福祉などの施設、在宅、地域の場における個人及び集団の特徴を把握して、感染予防、感染症からの治療・回復の促進、感染防止そして医療安全のための看護の役割について学ぶ。
選	選	保 Q 332	がん看護論	1	(1-0)	3	2	がんに関する基礎的知識を習得し、がん患者・家族に対する援助方法について学習する。
選	選	保 Q 333	救急・災害援助	1	(1-0)	3	1	救急法の実際を体験し理論を習得し、災害援助の哲学と実際を学ぶ。
選	選	保 Q 334	周産期学	2	(2-0)	3	1	妊婦・産婦・褥婦管理に必要な症候・病態を学ぶ。
選	選	保 Q 335	学校保健学	2	(2-0)	3	2	学校における保健管理や保健教育のあり方について学ぶ。
必		保 Q 341	小児看護実践学	2	(1-2)	3	3	小児の健康の維持・増進・回復及びQOLの向上に必要な看護の理論と技術について学ぶ。
必		保 Q 342	慢性期看護実践学	2	(1-2)	3	3	成人教育の基礎理論を土台として、疾病に関する知識（病態生理、治療法など）、疾病や症状に伴う身体的、心理社会的問題の理解と患者・家族の個性性を加味した生活援助及び看護援助方法について学ぶ。
必		保 Q 343	精神看護実践学	2	(1-2)	3	3	精神の健康問題をもつ対象者の看護援助方法について学習する。
必		保 Q 344	急性期看護実践学	2	(1-2)	3	3	周術期・急性期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、生命維持と症状緩和、回復過程の促進、安全・安楽の保持、生活の再構築に向けた看護の役割、援助方法を学ぶ。
必		保 Q 345	卒業研究 I	1	(0-3)	3	3・4	保健・看護諸分野の研究の基礎（含む研究倫理）、研究方法論、実験計画法、調査法などを学習する。
必		保 Q 346	高齢期看護実習 II	2	(0-6)	3	4	療養している高齢者を包括的及び生活機能の視点からアセスメントし、高齢者の健康レベルに応じた看護援助の実際について学ぶ。
必		保 Q 347	母性看護実習	2	(0-6)	3	4	母性看護の知識と技術を臨地実習の場を通して統合し、実践力を高める。
必		保 Q 348	在宅看護実習	2	(0-6)	3	4	訪問看護ステーションにおいて、疾病や障害を持つ療養者、終末期にある対象・家族への在宅看護活動に同行し、看護技術の提供、環境整備、療養生活の維持・向上にむけた他機関との連携、ケアマネジャーとの協働を体験する。また、受持ち事例をアセスメントし、課題検討や看護計画立案、評価、修正を通して実践力を養う。
選		保 Q 351	公衆衛生看護実践学 II	2	(1-2)	3	3	地域の生活集団、グループ、地域組織を対象とした健康保持増進のための公衆衛生看護活動を学ぶ。
選		保 Q 352	助産診断・技術学 II	3	(2-2)	3	3	妊娠・分娩・産褥・新生児各期の経過診断及び健康生活にかかわる診断について学ぶ。
選		保 Q 353	助産管理	1	(1-0)	3	3	助産管理の概念と助産業務および管理運営について学ぶ。また、助産業務に係る法律、災害、リスク・マネジメントと助産師活動について学び、助産師の社会的責務について理解する。
	必	保 Q 361	保健技術学実習	8	(0-24)	3	3	臨床検査に関する実務を学内外の病院において習得する。
	必	保 Q 362	技術卒業研究 II	2	(0-6)	3	4	保健諸分野の研究的方法論、実験計画法、調査法などを学習する。
選	選	保 Q 371	看護英語文献講読	1	(1-0)	3・4	3	医療、健康問題、ケア（看護）に関する文献の講読を通して、英語に慣れ親しみ、国際雑誌や英文で書かれた記事などを読解するために必要な基礎力を習得する。
選	選	保 Q 372	国際保健概論	1	(1-0)	3	3	国際保健の概略を参加型学習法によって体験し学ぶ。日本の保健医療と海外との比較によって社会のなかでの保健医療従事者としての立ち位置を確認する。

別表 2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択の別	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	ク ォ ー タ ー	授 業 内 容
選	選	保 Q 373	病理特殊検査法	2	(2-0)	3	4	特殊染色、免疫組織染色の理論、電子顕微鏡の理論とその応用について講義する。
選	選	保 Q 374	画像診断学	2	(2-0)	3	4	各種の画像検査法の特徴及び臓器別に特徴的な疾患の診断について学習する。
	必	保 Q 401	技術卒業研究Ⅲ	4	(0-12)	4	1~4	保健諸分野における調査、実験研究を行い、研究論文の作成ならびに研究発表を行う。
選	選	保 Q 402	総合検査学	2	(2-0)	4	2	各教科の学習によって得られた知識を総合的に活用しながら、臨床検査各分野のトピックや最近話題の疾患について複数の教員が講義し、検査と疾患のつながりを学習する。
必		保 Q 411	臨床看護技術の統合	1	(1-0)	4	1	臨床実習における学生の看護技術体験と実践能力自己評価の分析を踏まえ、モデルや模型を活用した演習で臨床看護技術の統合を図る。またコミュニケーション演習や多重課題が発生する状況設定演習により実践的な対応能力を養い、合わせて総合的な看護技術の評価を行う。
必		保 Q 412	小児看護実習	2	(0-6)	4	1・2	健康に問題のある小児に看護を実践し、小児の健康回復・維持・予防及びQOLの向上に必要な小児看護技術、社会資源、小児病棟管理等について学ぶ。
必		保 Q 413	慢性期看護実習	2	(0-6)	4	1・2	慢性期にある成人期対象者に対し、個別性を踏まえ、セルフケア能力を促進させるための看護過程を展開し、看護の実際を学ぶ。
必		保 Q 414	精神看護実習	2	(0-6)	4	1・2	精神の健康問題をもつ対象者の看護援助の実際について学習する。
必		保 Q 415	急性期看護実習	2	(0-6)	4	1・2	周術期・急性期にある患者とその家族を包括的に捉え、生命維持と症状緩和、侵襲からの回復促進、安全・安楽の保持、生活の再構築のための看護の実際を学ぶ。
必		保 Q 416	成人総合看護実習	1	(0-3)	4	1・2	対象に必要な看護をマネジメントする「看護管理」、および安全なケア・医療を提供する「医療安全・リスクマネジメント」の実際を学ぶ。
選		保 Q 421	助産診断・技術学Ⅲ	3	(1-4)	4	1・2	助産診断に基づく基礎技術と分娩助産技術・相談技術について学ぶ。
選		保 Q 422	公衆衛生看護実習Ⅰ	4	(0-12)	4	前期 (集中)	公衆衛生看護学で学んだ理論や方法を、地域住民の生活場において体験し、公衆衛生看護活動の実践に必要な知識、技術、態度を習得する。
選		保 Q 423	助産実習Ⅰ	2	(0-6)	4	前期 (集中)	病院実習を通して、妊娠期の助産ケアに必要な基礎知識・技術を習得する。助産実習を通して分娩期の基本的な診断技術を学ぶ。
選		保 Q 424	養護実践演習	1	(1-0)	4	前期 (集中)	養護教諭としての専門的知識と技術の習得をより効果的にすすめるために、養護実習に即して事前指導・中間報告会ならびに事後指導を行う。
選		保 Q 425	養護実習	4	4週間	4	前期 (集中)	教育活動全般ならびに学校保健活動（保健管理・保健教育・組織活動）の展開を実際に体験し、養護教諭として学校保健活動を推進していく実践的能力を培う。
必		保 Q 431	卒業研究Ⅱ	2	(0-6)	4	1~4	研究計画書に沿って研究を行い研究論文の作成ならびに発表を行う。
必		保 Q 432	看護統合実習	2	(0-6)	4	3	各領域実習を終えた学生がさらに関心を深めたい領域（基礎・成人・在宅・小児・母性・精神・老年・地域・学校保健・国際保健）の中から、自己の課題目標を主体的に設定し、その課題を達成するための実習を行い、総合的な看護実践能力を養う。
選		保 Q 441	公衆衛生看護管理	2	(1-2)	4	3	公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱの学びを統合するとともに、公衆衛生看護管理の構成要素について学ぶ。さらに、保健師としての専門的自立と人材育成について学ぶ。

別表2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	クォーター	授 業 内 容
選		保Q 442	公衆衛生看護実習Ⅱ	1	(0-3)	4	3	地域で暮らす人びとの健康課題の把握および解決方法を習得する。
選		保Q 443	助産実習Ⅱ	8	(0-24)	4	3・4	助産師として実践に必要な診断技術や分娩介助技術・保健指導技術を習得する。
選		保Q 444	助産統合実習	1	(0-3)	4	4	NICUでの実習を通して、妊娠期からの助産師としての役割を総括して考察する。
選		保Q 445	教職実践演習（養護教諭）	2	(2-0)	4	3・4	各自の履修カルテをふまえ、実技指導、グループ討論及び補充指導等を通して、養護教諭として必要な知識技能を修得したことを確認する。

別表 4

保健学科卒業要件

	授業科目区分	看護学コース		検査技術学コース		
		必修	選択必修	必修		
共通教育等科目	教養領域	健康運動系科目	2単位	2単位以上	2単位	
		人文系科目 *注1	4単位		4単位	
		社会系科目 *注2	4単位		4単位	
		自然系科目	4単位 ・ヒトの健康科学(2単位)を含む		4単位 ・ヒトの健康科学(2単位)を含む	
	総合領域	総合科目 *注3	2単位			2単位
		琉大特色・地域創生科目				
		キャリア関係科目				
	基幹領域	情報関係科目	2単位 ・情報科学演習(2単位)を含む			2単位 ・情報科学演習(2単位)を含む
		外国語科目	8単位 ・英語(8単位)、又は英語(4単位)と他の一つの外国語(4単位)			8単位 ・英語(8単位)、又は英語(4単位)と他の一つの外国語(4単位)
		専門基礎教育				7単位 ・化学Ⅰ(2単位)、又は化学入門Ⅱ(2単位) ・化学実験(1単位) ・生物学Ⅱ(2単位) ・物理学Ⅱ(2単位)、又は物理学入門Ⅱ(2単位)
	小計	28単位以上		33単位以上		

	授業科目区分	看護学コース		検査技術学コース		
		必修	選択	必修	選択	
専門教育科目	保健学科共通必修基礎科目	22単位		22単位 *注4		
	専門科目	基礎領域	19単位	9単位以上	59単位 *注4	12単位以上
		実践領域	36単位			
		展開領域	12単位			
	小計	98単位以上		93単位以上		
	卒業要件	共通教育等 + 専門教育 = 126単位以上				

*注1 看護学コース学生は、共通教育「人文系科目」の「人間関係論」、「生命倫理」を履修することが望ましい。

*注2 看護学コースの養護教諭一種免許取得を希望するもの、および保健師免許取得によって卒業後に養護教諭二種免許の申請を希望するものは、共通教育「社会系科目」の「憲法概論」を履修する。

*注3 検査技術学コースの共通教育「総合科目」2単位は、「動物実験の基礎」、「生命科学入門」から履修することが望ましい。

*注4 検査技術学コースにおいて「保健技術学実習」、「技術卒業研究Ⅱ」及び「技術卒業研究Ⅲ」を履修するには、下記条件を全て満たさなければならない。

条件1：保健技術学実習および技術卒業研究Ⅱ、Ⅲ(計14単位)を除く3年前学期までの専門教育必修科目67単位を修得していること。

条件2：共通教育等科目と専門選択科目を合わせた今後履修すべき科目の単位数が6単位以下であること。

- ◎ 専門教育科目の授業時間・内容等については、「保健学科履修要綱」及び「琉球大学 Syllabus Web」参照すること。
- ◎ 看護学コースの保健師あるいは助産師免許取得を希望するものは、「保健学科履修要綱」に基づき各免許指定科目を履修する。
- ◎ 看護学コースの養護教諭一種免許取得を希望するものは、「保健学科履修要綱」に基づき履修する。また、学期毎に「教職履修カルテ」の記入をする。